

七
至
奈
坂
本
舎
今

ノ
田
三
子
乃





T. J. F.



天皇へゆきの中

い息を嗅かずには濟む衆議院の議長席だ
▲此の議長席、餘ツ程政友會の議長殿には閉口した見にて、前々議長の大岡有造君も呪ひ落されて仕舞つた▲政友會の頭株は、これから間違つても議長席に坐るべからず▲戸水君も中橋君の豫言通りに落ちて仕舞つた、伊藤大八君も松原君も、乃至は三谷、恒松の諸君も諸落ちだ▲同志會の選舉長ごして高言を吐いてゐた安達謙君も落ちた、可哀さうではあるが、同君は熊本に於ける原敬君の格であつたから、仕方がない▲斯うも選舉民が覺醒したら、立憲政治の本家は日本になつて仕舞ふ、天道さまはマダ御座つたテ▲略して金利ご名乗る人が、大阪から出やうとして、違反に引ッかゝつたが、大阪金助ご名乗る先生は、平氣で青森市から當選してゐる▲大阪金助こは隨分皮肉な名を附けたものだが、其の次點者が吹田某こは妙だ、若し下り汽車だつたら屹度アベコベの運命だつたらう。

選舉民は覺醒せり

市部開票の結果は、略ほ選舉の大勢を知るを得たるも、郡部の開票を見ざれば其の結論に達する能はざりしが、郡部開票の結果は市部にも劣らざる變化を示し、非政府黨は大打撃を受けたり。是れ確かに選舉民の覺醒を認めざるを得ず。

吾人は非政府黨の凋落を見て、直ちに選舉民の覺醒を認むるものにあらず。本來政友會の大を爲したるは、過去十數年間政權を掌握し、宛も平氏の天下なるが如き勢なりしかば、利に趨る人情の常として、代議士たらば政友會に入るべし、代議士たらざるも政友會に由りて利を占むべし、大は公共事業より、小は自己の私事に至るまで、一に政友會に是れ頼らんこし、利ご利ご相倚り、勢ご勢ご相接し、以て今日の政弊を來したり。此の罪は藩閥の長老政治家ご利己主義なる一般選舉民ご下より政友會を挾みて釀成し來りたるものなり。即ち選舉民の側よりいへば、一種の自大思想ごいふべし。此の思想は封建政治の下に養はれ來りたる卑屈の遺習なるが、案外にも立憲政下に勢力を有し、政友會てふ一條體に由て凝聚したり。若し此の思想が現政府の下に又しても相集り、以て政府黨の多數を得たりとせば、吾人は更に慨歎せざるを得ず。然れども今次の選舉は餘りに急激なりしなり。此の點に於て我選舉民の決して尋常一樣ならざるを知る。我國民性の徵象として古來凝りては百鍊の鐵となり、發いては萬朵の櫻となるなごの句あり。是れ決して空言にあらず、今次の選舉にも發現したものごいふべし。吾人は之を選舉民の覺醒ごいふ。

茲に勝利を得たる政府黨は、果して其の黨の力によりて此の結果を見たるかといふに、吾人は亦必ずしも然りと言ふを欲せず。政府黨の或るものは政友會ご其の資質に於て伯仲のものあり、否或る部分に於ては政友會の或るものよりも劣れり。此の黨が直ちに國民の信認を得たるかごいふに、決して然らず現に同志會の選舉長として羽振り抜く、又熊本に於ける同志會の首領を

9

目せられし安達氏あだなが落選おちだれしたる如き、決して無意味にはあらざるなり。唯今次の選舉は比較的政見の争ひに近づきたり。乃ち政見の下に其の黨の半面を見遁がすの傾きなきにあらざりき。其の政見さいふも假作あり、虚欺あり。一に之を信する能はざるも、今日の内外政局に對し、在野黨の唱ふるもの、若くは其の行動の非國家的なるものあり、故に彼の政府黨中に如何はしきもあるも、今は姑く之を寛假し、一に大目的の爲に進みたり。政府黨たるもの此の理を忘れ、政友會の多年爲せし所を爲せば、覺醒したる國民は廓清の繼續として之を責めざるべからず。是れ吾人が前論にも繰返し置きたる所、覺醒したる國民は此の心を忘るべからず。吾人が政府黨に規する所、先づ此にあり。

翻つて政友會の爲に考ふるも、今回の大打撃は同會に取り寧ろ幸福なり。勢盛んなるさきは往々理性を滅却し、惡事爲さるなきも、天道は善に與みし正に歸す、今次の總選舉は正しく此の啓示なり。政友會思うて此に至らば、當に其の正に復るべきもの、是れ政友會の復活を意味す、豈幸福ならずや。此の自覺なく、今次の悲運を見て單に政府の干涉に出づゝせば、是れ覺醒したる國民を侮辱するものなり。國民は確かに覺醒せり。此の覺醒は決して一時的のものなるべからず。尙地方の自治政より社會全般に渡りて廓清の實を擧げ、以て憲政を根柢より確立すべきのみ。